

■自閉症スペクトラムの子どもたちへの実践事例

マルチメディアDAISY図書の活用による コミュニケーション力を育てる取り組み

関西地区小学校

はじめに

本校では、6つの特別支援学級に20数名の児童が在籍し、個々の児童の教育課程や目標がさまざまに設定されています。本校のマルチメディアDAISY図書の利用は、5年目となりますが、昨年より継続して利用している2年生の自閉症スペクトラムの子どもの学習の様子について報告します。

取り組みのテーマ

マルチメディアDAISY図書を活用し、自閉症スペクトラムの子ども（小学校2年生）のコミュニケーション力を高めること。

子どもの実態と保護者の願い

Aさんは、2017年度の9月より「わいわい文庫」の使用を始め、担任の作成した本の表紙のリストから自分で選択した本を視聴するようになっていました。

4月当初は、2語文を話し、A：「○○をください。」→担任：「はいどうぞ。」→A：「ありがとう。」などのやり

とりをしたり、本のフレーズの一部をくちずさんだりしました。

今年度、Aさんの内言語を知るため実施したPVT-R絵画語彙発達検査では、3歳0ヶ月程度の語彙力をしめしました。

交流学級では、子どもたちがAさんに「私の名前は？」と尋ね、Aさんが「○○ちゃん。」と答えるやりとりが多く見られ、他の問いかけには、エコラリア（相手が話した言葉をそのまま繰り返して発声すること）で返していました。いろいろな先生方の「おはよう。」などのあいさつに対しては、声を出して返答することもあるが、声を出さずに返すこともあり、現在も、Aさんの調子によって、「話すこと」には波があるように見えます。

学年当初「個別の指導計画」を作成するために保護者と面談した際は、コミュニケーションについて、以下のようない願いを保護者が伝えてくださいました。

○学校内のいろいろな人とコミュニケーションをとれるように。

- 体験したことを伝えられるように。
- 気持ちを表す言葉が、喜びや嬉しさの体験とつながって表現できるように。

そこで、Aさんの普段の学習内容に加え、絵本の「絵」と「言葉」をつなげるトレーニングを行い、コミュニケーション力を育てられないかと考え、マルチメディアDAISY図書の「わいわい文庫」を活用することにしました。

Aさんの話す語彙の数や種類は、学校より家で母親とコミュニケーションをとる時のほうが多いため、母親から発語の情報を得ながら取り組みをすすめました。

学習の実際

まず担任が「わいわい文庫」の中から、Aさんの発達段階に合った絵本を選書しました。つぎに、本文よりAさんがふだんほとんど使うことの少ない動作や様子を表す言葉で、生活と身近なものを選択し、その言葉に合う挿絵を焦点化して切り取り、言葉と絵を線で結ぶワークシートを作成しました。

本の題名

〈選択した言葉の例〉

- 『こぐまちゃん おはよう』
 - かおをあらう・えさをやる・ころんだ
- 『こぐまちゃんとどうぶつえん』
 - みずをのむ・うごかない・さかなをのみこむ

- 『ねずくんとらくんのあついあつい』
 - すずしい・あつい・スイッチをおす
- 『そらまめくんとながいながい』
 - ひっぱる・ふねをこぐ・まるめる
- 『しゃくしゃくけむしくん』
 - はっぱのさきっぽ・しがみつく・すたすた歩く
- 『かおかおどんなかお』
 - たのしいかお・かなしいかお・ないたかお
- 『ぼくのぼうけん』
 - あらしになる・ひっくりかえる・かくれる

〈ワークシート例〉

そらまめくんと　ながいながい　まめ ①	
月	日
1、ひるね	
2、ひっぱる	
3、ふねを　こぐ	
4、かんぴょうする	

しゃくしゃく けむしくん ① 月 日

--	--	--	--	--	--	--	--

1、はっぱの さきつぼ . . . 

2、しがみつく . . . 

3、すたすた 歩く。 . . . 

かおかお どんなかお ① 月 日

--	--	--	--	--	--	--	--

1、わらったかお . . . 

2、おこったかお . . . 

3、ねむったかお . . . 

活用の様子



Aさんは、教室での絵本の読み聞かせの時は、本に目を向けることが少なく話も集中して聞いている様子ではありません。しかし、ヘッドホンを使用しての「わいわい文庫」の絵本視聴の場合は、10分を超える作品でも集中できます。Aさんは、1時間に一つの作品を2回視聴した後、ワークシートに取り組みました。初めのうちは、担任が言葉を読み、絵も一つずつ指で示して追視させてからワークシートに取り組みようにしていましたが、回数が進むうちに一人で記入できるようになってきました。

間違った言葉については、一緒に動作化などをして印象づけられるようにしました。また、ワークシートを繰り返し使用することも試みています。

成果と課題

2学期を終えた現在のAさんについて、保護者は、「言いたいことが心の中にいっぱいあり、言えないもどかしさがあるように思う。」とおっしゃいます。今学期、保護者が驚かれたことは、Aさんが家で体調を崩した時「うつられた。」（うつされた）、前任の先生を思い出して「〇〇先生 いないから寂しい。」と言ったことです。学校では、対面した相手と目線が合い、まねをすることが得意になりました。担任や友

達が、選択肢をつけて好きなものややりたいことを尋ねると、エコラリアでなくAさんが返答するので、気持ちや要望が理解されやすくなりました。

Aさんの認知の仕方や発達の特徴を十分理解できているわけではありませんが、この学習は、場面と言葉を繋げる一つのトレーニングになると考えています。また、ヘッドホンを使用してのマルチメディアDAISY図書の視聴環境は、Aさんが集中するのに適しているうえ、個別の学習課題としても有効でした。

今後も本校のマルチメディアDAISY図書の活用について、多様な面から試行していきたいと思います。

